



植物工場を取り巻く環境の変化と 今後の事業展開の方向性について

2019.02.18

近鉄グループホールディングス株式会社



- 生産開始 平成24年8月
- 生産場所 奈良県吉野郡大淀町大字福神3-21
- 用途地域 準工業地域
- 生産面積 約200㎡
- 精算方法 薄膜水耕式（NFT）
- 生産品目 フリルレタス、パクチー
- 生産量
フリルレタス 約550株/日
パクチー 約440株/日



植物工場の特徴は……

季節や天候に左右されることなく、葉物野菜を安定的に生産できる

しかしながら、現実には……

安定して生産できるものの、安定して販売することができない

↓
スーパーでの植物工場産葉物野菜の位置付けは、「露地物の代替品」

← 近年の天候不順も相俟って

最近の傾向として……

小売用葉物野菜を生産する植物工場では、ビジネスモデルが成立しづらく、近年は業務用葉物野菜を大量生産する植物工場が増えつつある

||
大型の植物工場が増加傾向にある

植物工場大型化の事例①

日本経済新聞朝刊 2017/12/27

国内最大級の植物工場

三菱ガス化学は2019年に人工光を利用した植物工場を建設し、野菜生産に参入する。福島県白河市の製造・研究開発拠点内の約8000平方メートルの敷地内に建設する予定で、屋内で数段重ねて植物を栽培できる設備などに二十数億円を投資する。規模は国内最大で、一年を通して安定供給できる強みを打ち出す。

植物工場用システムの開発を手掛けるファームシッブ（東京・中央）と共同で

三菱ガス化学 野菜生産に参入

運営する。当初はリーフレタスを生産する予定で、日産2・6ト、年産で約1000トの生産量になる見込みだ。

植物の成長に必要な光は全て発光ダイオード（LED）で調整するため、天候や土壌の変化に左右されず、一年中安定して供給できる。安定供給の強みを生かして、一年中レタスが必要な大口の食品加工業者など向けに出荷契約を見込む。

日本経済新聞朝刊 2018/02/25

国内最大の野菜工場

キヤノンやバイテック

自動化技術で葉物栽培

キヤノンとバイテックホールディングスなどはレタスやケールといった野菜を栽培する国内最大の植物工場を建設する。工場を運営するバイテック子会社にキヤノンなどが出資し、工場の自動化技術を提供。2020年度までに国内で計8工場を稼働させる。

キヤノン子会社のキヤノン電子が工場に自動化技術を提供する。種まきから収穫、出荷を担う装置を提供する。キヤノンが自動化技術を外部に提供するのは初めて。野菜工場のノウハウを吸収し、自社での事業化につなげる狙いがある。

バイテック子会社で国内で3つの植物工場を運営する「バイテック ベジタブル ファクトリー」にキヤノン電子が約5億円、約1割を出資。約1割を出す三菱熱工業のほか日本政策投資銀行（約4%）など約10社が資本参加する。4月に新体制をスタートし、20年度末までに計8工場を整える。

20年度に稼働する石川県の工場は1日12万株、年約4400トの能力を持つ国内最大の植物工場となる。

日本経済新聞朝刊 2018/11/29

野菜工場 コンビニが再起

コンビニエンスストア各社が野菜工場からの調達を本格化させる。セブンイレブン・ジャパンは2019年1月、専用の野菜工場を稼働させるほか、ファミリーマートも工場栽培したレタスなどの仕入れを始めた。工場野菜は天候の影響を受けずに安定調達できるほか、生産者もコンビニ大手が大量に買い取ってくれることで投資リスクを減らせる。伸び悩んでいた工場野菜が広まる契機になりそうだ。

セブンイレブンを
2000店向けに

セブンイレブン・ジ

ャパンは28日、相模原市で野菜工場を公開した。プリマム傘下のフレイムテリカ（相模原市）が運営するセブンイレブン専用の工場だ。神奈川県や東京都の約2千店で販売するサラダなどに使うレタスを生産する。

大量購入を確約 投資リスク低減

ビジネス
TODAY

た」と話す。

野菜工場は同じ敷地内にあるセブン専用の食品製造工場と直結しており、野菜を生産してから商品になるまで外気に触れることがない。19年度中に野菜の収穫も自動化する計画で、人下や外気に触れる機会を減らすことと、サラダの賞味期限を現在に比べ約4割長い90時間とすると、セブンイレブン・ジ

ャパンの古巣1割仕は「風気調整や水まきなどの作業をいっしょに仕入れることが難しい時代になっ

た」と話す。野菜工場は2011年の東日本大震災の復興事業などを契機として急激で建設が相次いだ。しかし、日本施設園芸協会によると、野菜工場の約6割は利益を出せていないという。パナソニックや富士通など大手電機メーカーが半導体などの工場跡地に野菜工場を建設したが、多くの工場では電気代や人件費などの経費がかさみ、厳しい運営を



セブンイレブン向けに建設された工場ではレタス1日最大3トを生産できる（相模原市）

植物工場

主として、小売用に葉物野菜を生産

植物工場

小売用にイチゴ等を生産
農家向けに各種苗を生産

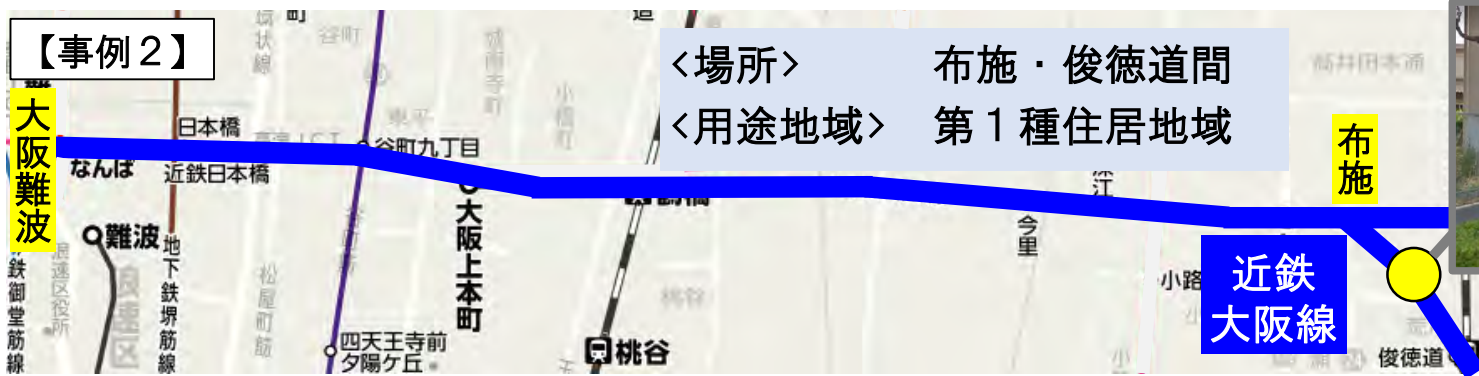
業務用に葉物野菜を生産

高付加価値化

大型化

鉄道高架下での植物工場の検討例

【事例2】



〈場所〉 布施・俊徳道間
〈用途地域〉 第1種住居地域



【事例3】



〈場所〉 針中野・矢田間
〈用途地域〉 第2種中高層住居専用地域



【事例4】



〈場所〉 十条・上鳥羽口間
〈用途地域〉 工業地域



商業施設跡地での植物工場の検討例

【事例5】

- <住所> 三重県名張市桔梗が丘
(旧近鉄百貨店桔梗が丘店)
- <敷地面積> 7,048㎡
- <延床面積> 17,530㎡
- <構造・規模> RC地上3階
- <用途地域> 近隣商業地域
- <計画概要> 栽培面積：約4,000㎡
栽培品目：レタス
日産：4,600株

